

様式3

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第2回相模原市文化財保護審議会		
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話042-769-8371 (直通)		
開催日時		令和6年10月23日(水) 18時00分～19時45分		
開催場所		相模原市役所本庁舎 第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	2人(株式会社フジヤマ)		
	事務局	4人(生涯学習部長 他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について (1) 序章～3・7・8章の修正点の確認 (2) 第4章(将来像と基本方針)、 第5章(一体的・総合的な保存活用)、 第6章(保存活用の取り組み)の本文検討 2 その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

議題 1 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について

事務局から説明を行った後、質疑応答を行った。

(1) 序章～3・7・8章の修正点の確認

特に意見なし

(2) 第4章(将来像と基本方針)について

(浜田委員) 4-4 ページ1 しらべる(2)「博物館準備室調査」は「博物館準備調査」でよい。4-1 4 ページ9 (2) だけ「郷土」と言っているが、他が「地域」となっているため特に意図がなければ「地域」でよいのではないか。

(山本委員) 4-1 1 ページ4 まもる(2)「啓蒙」は「啓発」の方がよい。

4章の「しらべる」「つたえる」「つなげる」「まもる」は、若年の方に読んでもらうような意図か。特に意図がなければ漢字でよいのではないか。強調するためであれば色を変えるなどもある。

(浜田委員) 多分キャッチフレーズ的に使っている。

・第5章(一体的・総合的な保存活用)について

(山田委員) 津久井城の黄金伝説は初めて聞いた。信じられない。資料が出てきたということか。

(事務局) 近年、博物館での津久井城資料調査の中で、津久井城主の館内で金のインゴットが作られていたことがわかっており、資料調査報告書も刊行されている。また、津久井城の最後の城主であった直行の朱印が「金」の字を半分に割って間に「宝」の文字が入ったデザインになっており、津久井城内藤氏と金との深い関係が最近わかってきた。

(山田委員) 金山(かなやま)という地名もある。甲州の武田信玄も金をやっていたそうである。

(事務局) 博物館の地質調査では津久井の山奥で金が分布する可能性がある地質環境が確認され、明治大正の書物の中で砂金採取がされていたことが記されている。

(山田委員) どのあたりか。

(事務局) 道志川支流の神之川の上流や、津久井の山奥には金山沢や金沢といった金に由来する沢があり、砂金調査でも金が取れている。それと考古資料、発掘調査成果、文献資料を組み立てると、黄金を作っていたと考えられる。

(海老澤委員) 5章の具体的なストーリーは面白い。関連文化財群の名称5「水と台

地が生んだ近代化遺産」についてはもう少し「軍都」がわかる名称にならないか。ネガティブな印象なので使わなかったということか。

(事務局) 負の遺産ということで使わないということではない。戦争遺産に焦点を当てることで世界平和につながるということもあるので、ネーミングについては検討したい。

(海老澤委員) 養蚕はどこに入れるか。

(事務局) ストーリーとしては入れていないが、入れるとすれば小原宿本陣自体が大型の養蚕農家のため、そのあたりか。

(浜田委員) 入れるとしたら近代か。近代の方が盛んに行われていた。

(事務局) 5番の着眼点は近代化遺産として絞っている。建造物としての養蚕農家としてか。

(海老澤委員) 津久井の方には養蚕農家が多い。そういうものを守っていく姿勢を示す意味もあるのではないか。

(浜田委員) 台地のところか、水田がない地域なので桑の木を植えて養蚕した。市内でも漸進社など製糸工場があったこともあるが、全体の流れからすると入れるのは難しい。

(事務局) すべてを網羅するというものではなく、市の歴史文化を代表するようなものを取り上げている。

(山田委員) 山口さんという家に明治時代、蚕種総代(さんしゅそうだい)とって養蚕の元締めのようなものがあつた。渋沢栄一の手紙もある。それから、先ほどの金の話の時に出てきた囃子はどのあたりか。

(事務局) 首長囃子は首長こと柳川長吉が多摩地域から津久井の鳥屋に金を取りに来て、囃子を伝え今に至っている。囃子としては長竹や中沢が中心である。

(浜田委員) 近代化遺産のところで、相模川に関連して、横浜水道も大事だが、厳密には横浜市の施設なので、相模原が強調すべきは相模川河水統制事業や戦後の畑地灌漑事業ではないか。畑地灌漑用水の一部は登録文化財になっていたと思われ、日本で最大の灌漑面積を持った戦後の開発事業でもある。5-21のストーリーあたりに書き加えると説得力が増すと思う。また、相模川の戦後の砂利生産も東京の復興とか京浜工業地帯の造成に大きな役割を果たしていて、川としてそのような歴史も念頭に入れて考えるとよい。

(神崎委員) 現代も入れていいのではないか。旧市域で言えば原清兵衛氏の清兵衛新田などは、小学校でも教材として出て来るくらいなじみ深く、入っていないのは少し残念である。

(浜田委員) 文化庁では昭和39年まで近代化遺産調査対象に含めている。

(事務局) 相模湖相模ダムなどは、戦後日本初の人造ダムということで、国登録文化財になり得るような価値もあると思う。今回は近代化というところに絞ったため、

畑地灌漑用水以降は現代なので外したが、河水統制事業を含めて再度検討したい。また、先ほど説明した地域遺産制度では、原清兵衛氏の関係であれば周辺の石碑などとともにストーリーの構築も可能と思われるので、そうしたところで拾っていただくとよいと考えている。

(内川委員) 5ページ5-6で「公開施設のボランティアガイドの充実」は「公開施設の活用とボランティアの充実」とすべき。また全体の方針が示されているのに対し、全体のバランスが少しとれていない印象がある。

・第6章（保存活用の取り組み）について

(山本委員) 5-26ページで、若い人はバーチャルで見て解決してしまうので、現地に連れていくなり、行かせる工夫が必要。

(内川委員) 3節の方針の中にも、無量光寺をどう活用するかを入れて欲しい。

(事務局) 寺の関係があって入れ込みにくいところもあるが、調整が取れば入れていきたい。

(海老澤委員) 全体的に文化財の活用に関しては弱い印象があるが、空き家の利活用の推進について明記している点に注目したい。いわゆる空き家バンクのように、文化財になっていない民家にも広く目を配ってマッチングさせていくような想定があるのか。例えば若い学生にも古民家の活用に興味を持つ人は多く、文化遺産未満の民家も含めてその活用提案に力を入れれば、他の自治体に先行する取り組みとして面白くなるかもしれない。

(事務局) 未指定も含めた「地域遺産」など、所有者や行政だけでなく、地域主体的なものとして検討したい。

(山田委員) 相模湖の歴史も入れてよいのでは。

議題2 その他

- ・特に意見なし。

以上

相模原市文化財保護審議会委員出欠席名簿

(令和6年10月23日開催)

No.	氏名	所属等	出欠席	備考
1	薄井 和男	中世美術史（彫刻） 元神奈川県立歴史博物館館長	欠席	
2	内川 隆志	日本考古学 國學院大學教授	出席	副会長
3	海老澤 模奈人	建築史（近代建築史） 東京工芸大学教授	出席	
4	鹿野 陽子	造園学（景観） 岐阜県立国際園芸アカデミー客員教授	欠席	
5	神崎 直美	日本近世史 城西大学教授	出席	
6	中島 彩花	日本美術史 女子美術大学研究所特任助教	出席	
7	萩谷 宏	地球科学（地質学・岩石学・地球史） 東京都市大学理工学部自然科学科・准教授	欠席	
8	浜田 弘明	人文地理学 桜美林大学教授	出席	
9	宮本 太	植物分類・生態学 大学院専攻主任 東京農業大学農学部生物資源学科	欠席	
10	山崎 祐子	民俗学 一般財団法人宮本記念財団理事	欠席	
11	山田 正法	郷土史 元相模湖町文化財保護委員	出席	
12	山本 雅子	発生学、解剖学（動物） 麻布大学名誉教授	出席	会長

任期は令和6年10月1日から令和8年9月30日まで